

サ 一 ② ク 間 丸

郷土の心 和太鼓でドドン!

金華山子供黒潮太鼓

金華山子供黒潮太鼓は、現在、小学校2年生から6年生までの16人のメンバーで活動を行っています。毎週月曜日に牡鹿公民館で練習を行い、6年生が後輩に教えながらみんな楽しく、そして真剣な表情で太鼓に向かっていきます。太鼓に寄せる思いを、代表者であり指導者でもある齋藤富嗣さんに伺いました。



金華山子供黒潮太鼓は、生涯学習の一環として牡鹿地区の創作太鼓、金華山黒潮太鼓の演奏を子どもたちに伝承しようとして平成4年に結成されました。

結成から13年、牡鹿の鯨まつりや芸能祭などのイベントをはじめ、各地から多くの出演依頼をいただき、数々の会場で多くの人に演奏を披露してきました。子どもたちに太鼓を教えるというよりも嬉しいことは、太鼓に寄せる熱意がいつの年も変わることなく「やってみたい!」という子どもたちが多くことです。伝承の大切さはもとより、子どもたちにとっては貴重な経験と大きな自信、そして励みになると思っています。

今年も新市誕生を記念して新たな曲にも挑戦する予定です。太鼓をやりたいという子どもたちがいる限り、地域の方々の協力と理解をいただきながら、今後も指導に努めていきたいと思っています。



農業一筋

支え合って50年

庄司

勝見さん
佳子さん

ご夫妻(北村)

今回は、河南地区北村で長年農業を営んできた庄司さんご夫妻を紹介します。

結婚したのは、昭和30年4月ですから、ちょうど50年になりました。見合い結婚でした。

結婚後は、毎日、朝から晩まで田畑を耕し、山の下刈りをす

るなど、とにかく一年中働きつめの生活でした。二人とも口には出しませんでした。農家の長男夫婦として、家業を守るため、二人で支え合っただという気持ちは強かったです。

3人の子宝に恵まれ、現在は、長男夫婦、2人の孫、母親と暮らしています。

長男夫婦が農業を継いだ後も、自宅近くの農園で、夫婦でふき、梅、栗、茶などを育て加工しています。中でも、結婚後間もなく植栽した茶畑のお茶は、コクがあると評判で、今年も5月に摘んだ新茶の出来を二人で楽しみにしています。



みんな

学ぶ楽しさを実感

佐藤 長右衛門さん(北上町月浜) 91歳

長寿のひけつ ②



今回は、91歳で俳句歴三十年の佐藤長右衛門さんをご紹介します。

佐藤さんは、学ぶことが大好きで、時間があると俳句作品を作ったり、本や新聞を読んだりする勉強家です。日記は30歳ごろから書き始め、現在も寝る前に一日の出来事を書き留めています。また、花が好きで、色とりどりの花が咲くころからの季節を楽しみにしています。

勤務していた職場を退職し、何か趣味を始めようと思っていたとき、知人に誘われ俳句作りを始めました。昭和五十一年には、北上町の文化活動の一つとして結成した「北上町俳句愛好会」に入会し、

本格的に俳句を始めました。その後、角川書店「河」同人会の会員となり、現在はこの二つの会に毎月五句ずつ投句をしています。毎月の句会には出席できなくなりましたが、句会を通して多くの師友と出会い学ぶことができたのが、大きな励みとなりました。

今年4月に開催された南三陸俳句クラブ新春俳句交歓会では、投句した三句がすべて入選し、家族も驚いていました。

俳句は奥が深く勉強がかかせません。毎日午前中は、俳誌や句集などを読み、俳句五句を作るよう心がけています。集中力や記憶力を喚起させるので、頭の老化防止にもなります。五七五の音節をどのように表現するか考えるのが、最高の楽しみです。

にぎやか家族 ②

伊原津一丁目

桃生町中津山



(写真左から)

佐藤 瑠菜ちゃん(8歳) 映 瑠ちゃん(5歳) 志 龍くん(2歳)

<おばあさんから>

お父さんとお母さんは仕事が忙しくて、なかなか一緒に遊べないけど、素直で元気に育ってほしい。

<子どもたちから>

家族7人、みんな長生きしてね!



(写真左から)

佐々木 海晴くん(5歳) 悠 真くん(6歳) 大 城くん(1歳)

<パパママから>

いつも元気いっぱいの子どもたち。子どもらしく素直な、善悪の判断ができる子に育ってね。

<子どもたちの将来の夢>

悠真くん……水泳選手 海晴くん……警察官